

200/300 シリーズによって管理されるスイッチの Etherlike 統計情報

目標

200/300 シリーズによって管理されるスイッチは Etherlike 統計情報にアクセスを提供します。これらの統計情報はハードウェア 関連エラーのような物理層にエラーへ関連情報です。これらのエラーは銅ケーブル、インターフェイスおよびネットワーク インターフェイスカード (NIC) のような必要なネットワークコンポーネントの失敗が原因で発生する場合があります。接続に関する問題の場合には、これらの統計情報は判別しませんが問題の原因を有用である場合もあります。この記事は 200/300 シリーズによって管理されるスイッチの Etherlike ページの情報を説明します。

適当なデバイス

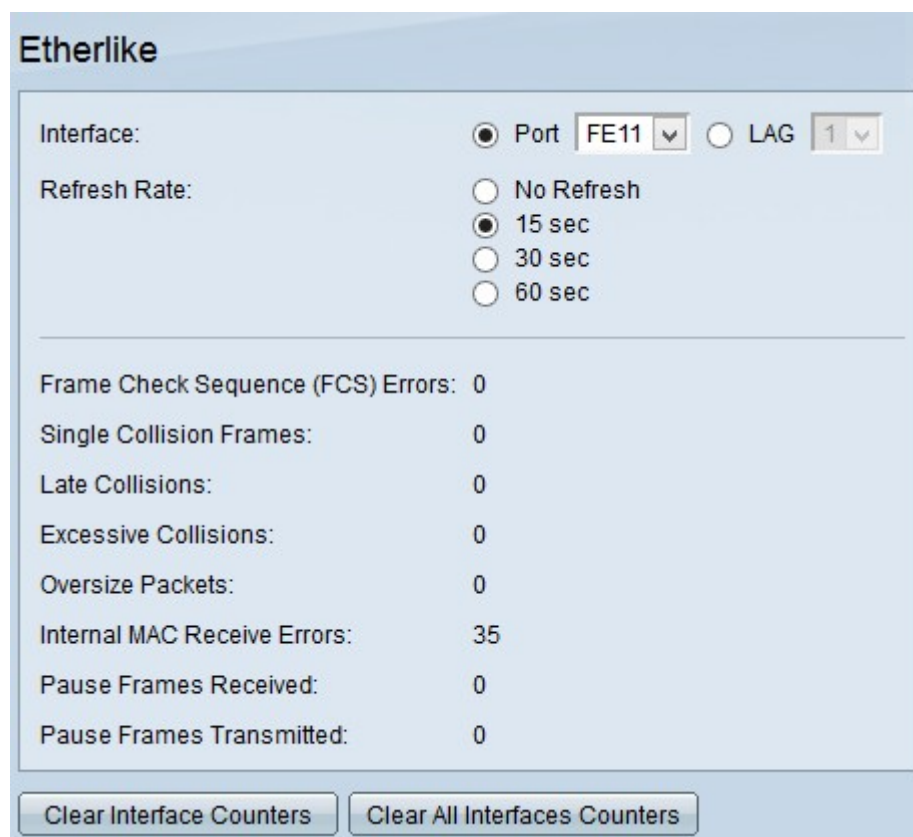
- SF/SG 200 および SF/SG 300 シリーズによって管理されるスイッチ

[Software Version]

- 1.3.0.62

Etherlike 統計情報

ステップ 1. Web コンフィギュレーションユーティリティへのログインは [統計情報 > Etherlike 『Status』](#) を選択し。Etherlike ページは開きます:



The screenshot shows the 'Etherlike' configuration page. At the top, there are two tabs: 'Port' (selected) and 'LAG'. Under 'Port', the interface is set to 'FE11'. Below this, there are radio buttons for 'Refresh Rate': 'No Refresh', '15 sec' (selected), '30 sec', and '60 sec'. A horizontal line separates the settings from the statistics. The statistics are as follows:

Frame Check Sequence (FCS) Errors:	0
Single Collision Frames:	0
Late Collisions:	0
Excessive Collisions:	0
Oversize Packets:	0
Internal MAC Receive Errors:	35
Pause Frames Received:	0
Pause Frames Transmitted:	0

At the bottom, there are two buttons: 'Clear Interface Counters' and 'Clear All Interfaces Counters'.

ステップ 2.利用可能なタイプのインターフェイス フィールドのインターフェイスの 1 つの Radio ボタンをクリックして下さい。インターフェイスの利用可能な型は次のとおりです:

- port — ポート ドロップダウン リストから Etherlike 統計情報をからの表示したい物理ポートを選択して下さい。
- ラグーリンク 集約 グループ (ラグ) ドロップダウン リストから Etherlike 統計情報をからの表示したいラグ ポートを選択して下さい。 ラグ ポートはより多くの帯域幅を提供するために複数の物理ポートの機能を結合するロジカルポートです。

ステップ 3.リフレッシュ レート フィールドの Etherlike 統計情報情報をリフレッシュするために利用可能な Radio ボタンの 1 つをクリックして下さい。利用可能な オプションは次のとおりです:

- リフレッシュ無し—決して *Etherlike* ページ更新。
- 15 秒— *Etherlike* ページを 15 秒毎にリフレッシュします。
- 30 秒— *Etherlike* ページを 30 秒毎にリフレッシュします。
- 60 秒— *Etherlike* ページを 60 秒毎にリフレッシュします。

Etherlike ページ表示選択されたインターフェイスの Etherlike 次の統計情報:

- フレーム チェック シーケンス (FCS) エラー—巡回冗長検査 (CRC) 壊れた受信フレームを表示する。 CRC はフレームが正しい順序で宛先に到着したかどうかを検出する。 各フレームは宛先への到達にテストされる CRC 数を運びます。 CRC がフレーム間のマッチに番号を付ける場合、パケットは No エラーが含まれています。 そうでなかったら、それからパケットは破損して、それから廃棄されます。
- 単一 衝突帯—単一 衝突に関連した帯の数、結局送信を完了される。
- レイト コリジョン—データの最初の 512 ビットの後で検出する 衝突の数。
- 過剰なコリジョン—過剰なコリジョンが拒否された原因だった伝達の数。
- 特大 packets — パケットの数は受け取りました 2000 オクテットより大きかった。
- 内部 MAC 受信エラー—帯の数はレシーバのエラーが原因で拒否しました。
- 休止フレーム received —受信されたフロー制御 休止フレームの数。
- 送信される休止フレーム—送信されるフロー制御 休止フレームの数。

ステップ 2.(Optional) 選択されたインターフェイスの Etherlike 統計カウンターをクリアするためにインターフェイス カウンタを『CLEAR』 をクリックして下さい。

すべてのインターフェイスの Etherlike 統計カウンターをクリアしたいと思う場合ステップ 3. (オプションの) はすべてのインターフェイス カウンタを『CLEAR』 をクリックします。